

## 神戸市マルチメディア文化都市構想\*

神戸市企画調整局調査課長  
木村 義秀

今年度、神戸市は「マルチメディア文化都市構想について」という報告書を出しております。その中で「神戸国際マルチメディア文化都市（KIMEC：Kobe International Multimedia & Entertainment City）構想」というものを打ち出しています。KIMEC と呼んでおりますこの構想は、本学工学部の北村先生にも研究会のメンバーに入っていただき、去年の12月から3月の終わりまで研究会をやり、その報告書の中で提示されたものです。なぜ、神戸市がマルチメディア文化都市構想という都市戦略を打ち出したかということについて、若干お話させていただきますと思います。

神戸市は、皆さんご存じの方も結構多いかと思いますが、カタカナの都市づくりを多く行なってきています。ファッション都市づくりとか、コンベンション都市づくりとか、そして最近ではアーバンリゾート都市づくりといった具合です。マルチメディア文化都市構想を神戸の新しい都市戦略として打ち出していますが、新たにということではなく、マルチメディアというものは、街づくりの強力な道具になるだろう、そういうことを前提としています。今まで、例えば個別にファッションとかコンベンションとか各種イベントをやってきました。そういうものを統合して、さらにステップアップする道具として使えるのではないか、という発想がもとになっております。

ここでちょっと報告書のCDから巻頭言を紹介します<sup>†</sup>。

---

マルチメディアというのは、教育や生活・産業までも大きく変える大変重要な手段です。今、こうして新しい手段で皆様方にご挨拶できるのをとても幸いに思っています。神戸というとても優れた条件の揃った所で、マルチメディアの様々なことが、皆様のご協力によってできることを期待しております。こういった新しいツールを使って皆様方がどんどん自由に表現できて、また新しい産業ができることを期待しております。「KIMEC 構想」と呼ばれるこのプロジェクトが、神戸で実りあるものとして皆様方にお役に立つことを期待しております。

---

マルチメディアを今後の都市戦略として使っていこう、高度情報化を地域活性化の核にしていこうと全国の各自治体が鵜の目鷹の目で考えています。神戸市は、そういう意味から言いますと比較的立ち上がりは遅い方だったのですが、この半年間よいタイミングで立ち上げたと思

\*本稿の内容は講演テープから木村氏の了解を得て、神戸大学総合情報処理センターの責任において加筆修正を加え、掲載したものです。

<sup>†</sup>文中の——にはさまれた文は、パソコンによる光ディスクを利用した映像と音声によるプレゼンテーションの部分です。

います。自治体は、それぞれ地域の特性を出さなくてはいいけないと言いつつも、やっていることは、20年前、30年前からあまり変わっていないように思われます。30年前の重工業誘致や、ハイテクとかサイエンスパークだとか、みんな同じようなものをつくる訳です。そういう意味でいいますと、マルチメディアというのも何か同じようなものになってきます。地域の特性を出しつつ、マルチメディアをどう活用するか、というふうな方向を考えています。神戸市が今考えております「KIMEC 構想」は、考え方としては非常に大きい街づくり戦略の一つの指針と考えています。具体的にどのように産業振興に役立てていくのか、文化振興はどうするのかは、これから個々のセクションで具体的に考えていきます。街づくりの道具としてそういうものを活用する、そういうものが活用される街をつくっていききたい、ということです。センターをつくるとか、マルチメディアの団地をつくらうとか、学校をつくらうとかは、各論です。各論につきましては、これからいろいろ考えていかなければいけません、壮大で長期に渡る都市づくりをどうやっていくのか、最終的には市民生活にどう反映させるのか、そのようなことを「KIMEC 構想」は、考えていきたいというものでございます。

では、何故神戸がマルチメディアに関して向いているのか、ちょっと乱暴な理由付けをしてみます。まず、KIMEC 構想をやることに関して研究会を開き、取材をした方々のインタビューです。

---

矢野電気の矢野常務：ビジネスの中心である東京から、ある意味で距離を置いたローカルな地域においては、今までのアナログの時代だったらそのハンデがあったと思う。しかし、デジタル化の時代になっていこうとしている中で、ハンデがハンデでなくなっていく。そういうものを実感したい訳です。実証したい訳です。あくまでもビジネス中心の考え方から、家庭であったり、ライフスタイル自身も優先するというように変わっていくのではないかと。ビジネスのための都市ではない所に住んでいなければ実証できないと思います。

---

ここにキーワードが出ています。距離というハンデがなくなる。ローカルでデジタルの時代を実証したい。同じく高度情報化というマルチメディア社会についてということで、子供達に絵を描いてもらっています。

---

将来 KIMEC の担い手となる神戸の子供達です。ハーバーランドにある港町小学校の皆さんに未来の神戸の絵を描いていただきました。

「僕は4年2組の藤井大介です。この街は、公衆電話・住宅・乗り物・UFO、いろいろな物が太陽電気で動いています。そして、この街のシンボルはテレビタワーというタワーで、映画や漫画、ニュースなどがいろいろ放送されています。太陽電気なので自然が一杯あります。いろいろな便利な乗り物やいろんな UFO があります。そして曇りの時はラジコンで動かせる太陽で太陽電気を起こします。」

---

マルチメディアが大きな都市戦略であるといいつつも、具体的に打ち出していく必要がある訳です。マルチメディアを地域の活性化なり都市戦略にどう使うか、という一つの切り口だと思います。その中で神戸らしさを出して行く必要があります。事業のスキームですね。よく言われます「10年前のニューメディアとどう違うのか」、「先が見えないじゃないか」という

世界がございます。ある意味でいいますと「産業なり、そういう一つの位置づけとしてハッキリしていない」、「需要にしたって潜在的ではないか」、「何をするのか」、「何ができるのか」という世界で、そういうものに合わせながらやって行けというような話になっています。そういうことを考えながら、一応4つの核プロジェクト、比較的早めにやりなさいよという物をあげさせていただきます。ただし、このままその通りできるかどうか、今後の話しになってこようかと思えます。この4つの核プロジェクトを、来年から4年後位にかけて立ち上げていきたい、それを持って神戸の「KIMEC 構想」の先導役としていきたいと思っています。

4つの核プロジェクトをダイジェストでご説明致します。4つというのは、「KIMEC WORLD」、「デジタル映像研究所」、「デジタル・ハリウッド・フェスティバル」、そして「デジタル・ネットワーク・サービス」です。

---

**KIMEC WORLD：**KIMEC 構想では、マルチメディア文化を中心とした次世代の都市づくりを目指します。国際都市神戸にふさわしいデジタルエンターテイメントシティを創造する。それが、KIMEC 構想です。マルチメディア文化と産業を楽しく理解し、そして学べる体験型のテーマタウン。デジタルエンターテイメントビジネスのメッカを目指し、制作や表現の場を提供します。世界中のクリエイター達が集まるようなマルチメディア文化の発信地を目指しています。

---

記者発表した時には、この他にテーマパークの構想がありました（レジャーワールドという名前になっています）。それと引っ付けられまして、またマルチメディアのテーマパークをつくるのですか、という質問がありました。そうではなくて、テーマタウンとっていますが、テーマパークという非日常性の世界ではなく、新日常性、つまり、15年後、20年後の世界がどういうふうになっているか体験しながら、企業サイドでいいますと商売にできるという非常に結構尽くめのものをやろうということで、エンターテイメントと新日常のショーケース、この2つを成立させるような物をしていきたい。ポーアイの2期と考えておりまして、できれば建物自身は仮設でいいから、中身ですね、いろいろテーマがあると思います。別のCD-ROMがございますので、それでご説明したいと思えます。

---

**デジタル映像研究所：**世界市場を対象としたデジタル映像のソフトに関する研究開発・人材の育成や教育を行っていくものです。

---

これは、「KIMEC 構想」の中核施設と位置づけています。当然、先ほどの KIMEC WORLD に隣接して設置をされる予定で、そこでのリンク、それからこの次出てきますデジタル・ハリウッド・フェスティバルなりデジタル・ネットワーク・サービス、いわゆるインフラの上に何を走らすのかといった部分で、何かのソフト開発なり、活用というようなことでのリンクが出てこようかと思えます。

---

**デジタル・ハリウッド・フェスティバル：**マルチメディア文化をテーマに市民と専門家が参加するフェスティバルやコンベンションを開催していきます。

**デジタル・ネットワーク・サービス：**デジタルネットワーク網を整備して、市民生活を充実させる双方向のネットワークサービスを提供します。

---

つまり、研究所等でそういう制作の場を提供しよう、また人材を育てよう、その発表の場所な

り、そういうことができる場所ということで、デジタル・ハリウッド・フェスティバル、KIMEC WORLD を作っていこうということです。それを乗せて、今度は開発側からすると、どういふふうに使われるか、また、市民からすると、先端的なマルチメディアが活用されることによって今後どうなっていくかが体験できる。それらを複合的にやっていこうということで、場所的にはポーアイ 2 期が間もなくでき上がりますので、新しい所で絵を描いてみたい、単にそこだけではなしに、このデジタル・ネットワーク・サービスは何をもってするのか、何を使うのか、何ができるのか、何をするのかを考え、それを全市的に拡げていきたいというのが考え方でございます。

このデジタル・ネットワーク・サービスの一環として、インターネットの活用を考えております。WWW サーバに神戸市のホームページを作っており、今日昼からのデモでご覧いただければと思います。新しいツールとしてのマルチメディアを活用して情報発信をしていこう、また、そういう神戸を知っていただく、そういうようなことを取りあえず始めたい。多分行政はマルチメディア化からいきますと一番最後についてくるでしょう。早くといっていますけれども、実際行政の中へ入って来るのは多分一番最後でしょう。ただ、行政といいますが、一般的な私共がやっている行政は最後でしょうけど、医療とか保健・福祉、教育などでは、一番活用されなければいけないでしょうし、デジタル映像研究所等も、ソフトをできるだけ開発支援していく必要があると思っています。

最後に、今朝ほどきたばかりのソフトで、KIMEC WORLD についてももう少し詳しい CD をご覧いただきます。これは、私共がつくったものではございません。ある大手のゼネコンさんが、自分の所のモデルとして研究したいということで、神戸市の構想を持って帰られてコンセプトを作られたものです。

---

KIMEC WORLD はポートアイランド 2 期に建設されるマルチメディアビジネスの街です。これにより新映像産業や外資系企業の誘致を促進します。KIMEC WORLD は、マルチメディア文化産業のショーケースであり、また、集客装置としての空間でもあります。マルチメディアが導入されたこの街では、21 世紀の新日常生活を体験することができます。

この街は幾つかのテーマタウンの集まったもので、KIMEC ウォークと呼ばれる通りを中心に回遊空間が設けられます。新産業の実験場であるため、投資額を抑えた低層の建物が主流になります。それぞれのテーマタウンでは、関連する新産業やイベントフェスティバルが展開され、多くのビジネスチャンスが生まれるようになっています。

商いの街はマルチメディアを利用したポーアイセンターです。広大な売場には安くて豊富な商品が並んでいます、マルチメディアの利用により必要な商品が簡単に手に入ります。ビジネスショーが毎年開催され、マルチメディアの情報発信の場となっています。

デジタルアニメタウンは、ハイテクアミューズメントの街です。各社自慢の最新ハード・ソフトが勢揃いし、リピータが絶えません。好きなアニメが自由に観れるデジタルビデオライブラリも人気の的。また、ここはマルチメディアスクールの卒業生の仕事場でもあります。

---

こういうふうな展開ができるであろうとプレゼンテーション用に作っていただきました。今日初公開です。

予定の時間になりましたので、これで私の話は終わらせていただきたいと思いますが、最後に一言。これは宣伝になりますが、先程ホームページの話をしたのですが、このホームページは SINET を図書館とか外大から神戸大学を通して使わせていただくというのに便乗してやっていることで声を大にしては言えないのですが、4月になりますと神戸市の各地域図書館から SINET を通してインターネットにアクセスができる図書館情報システムも完成されます。神戸市の行政は、多分マルチメディア化が一番最後からいくということなのですが、できる所から進めていけたらとも考えています。もう一つ、先程あげました4つの核プロジェクトですが、先程もいいましたが、構想だけでは先に進みませんので、考え方としましては、1998年、平成10年の春を事業化の目途と考えております。それまでに4つのものが何らかの格好で立ち上がっているというふうにしていきたいと思っています。何故平成10年春かと申しますと、皆さんもご存じだと思いますけれども、明石海峡大橋が起き上がるのが平成10年春です。その時には、兵庫県は淡路島でコミュニケーションの祭典ということをおやりになります。本土側は、神戸市が何かしなくてはならないのです。そのようなことを含めまして、ポーアイの2期もちょうどその頃で起き上がりますので、それのお披露目も兼ねて一つの努力目標として、平成10年春にはやって行きたいと考えております。神戸市の宣伝も兼ねましたけれども、これで終わらせていただきます。